

2023 年度

建国高等学校 入学試験問題

日本語

(100 点 50 分)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れなどに気付いた場合は、手を上げて監督者に知らせること。
3. 問題冊子の表紙(このページの下部)及び解答用紙には、以下の項目があるので記入漏れのないようにすること。
 - ・ 受験番号
 - ・ 名前
4. 試験終了後、この問題冊子は回収します。

受験番号	名前
番	

1 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(字数制限がある場合は、文章記号なども一字とする。)

※数字・送り仮名などの表記は本文に従った。

1984年11月14日、私は静岡英和短大の生徒で、十九歳だった。

その日は学校の研修旅行で奈良に来ていた。気の合う友人数名のグループで自由に奈良を見て回るといふ気楽な旅行だったので、みんなで自転車を借りて飛鳥の周辺を走っていた。

それで石舞台や亀石などのいしぶたい かめいしイセキや、甘櫛丘から奈良の風景をあまかしのおか眺①めて感動したり、岡寺に行ったりしたの

だが、その岡寺に向かう坂の途中にある『坂乃茶屋』というお茶屋さんに立ち寄って休けいした時のことだ。

そこのお店屋さんの店内には、②オトズレタ学生達の色紙がいっぱい飾ってあった。みんな記念に書いてお店に置いてゆくようだった。

私達もお店のおばさんから③色紙とクレヨンを渡され、「記念に何か書いていって下さいな」と言ってもらった。友人達は私におかって「もちちゃん、あんた、書きなよ。ペンネームでちゃんと書きな。絵も描いた方がいいよ。記念になるから」と言い、色紙とクレヨンを私に渡した。

実は、私はその5日後に漫画家としてのデビュー作が雑誌に④ノることに決まっていたのである。だから友人達は「ペンネームで書きな」と言ってくれていたのだ。

まだデビューする前にペンネームで書くというのは何とも照れ臭いし緊張した。色紙に絵を描いてサインをするというのも初めてだったし、友人達の前で描くのも恥ずかしかった。

私達はお店で『にゅうめんセット』を食べ、わらびもちをごちそうになり、おじさんとおばさんにあいさつして色紙を置いて去った。

——あれから16年も経った。

私は、何年も前からまた奈良に行きたいとずっと思っていた。

あの時見た奈良の飛鳥の景色が忘れられず、甘樫丘や岡寺、そして坂乃茶屋さんに行きたいと思っていた。それなのに毎日の雑事に追われ奈良に行く機会のないまま日々が過ぎていた。心の中のどこかにいつも「奈良に行きたい」という思いがあるのにこんなに行けないままなんて、もう限界だ。行けばいいじゃないか。一泊や二泊で戻ってくるんだから、仕事や用事なんてほっといたってかまやしない。

① そう思ったち、私は急に奈良に行くことに決めた。そしてスタッフの斎藤さんにも「一緒に奈良に行こう」と急に言って、ついてきてもらうことにした。

朝から家を出て新幹線に乗り、京都からタクシーに乗って昼すぎに奈良に着いた。奈良市内のホテルにチェックインしたあと、またタクシーに乗り、飛鳥に向かった。

私は斎藤さんに、短大の頃飛鳥に来てとてもよかったこと、それから坂乃茶屋さんに② デビュー前の自分が色紙を書いて置いていったことを話すと、斎藤さんは「そんな思い出が飛鳥にあったなんて知らなかったよ。そのお茶屋さんにも行きたいね。デビュー前の色紙を見たいよ」と言った。

車は奈良から一時間余りで飛鳥に入った。なつかしい飛鳥の景色が目映る。まずは岡寺に行こうということに

なっていたので、車は岡寺に向かって坂を登っていった。

坂の途中で、坂乃茶屋さんの店が見えた。私は斎藤さんに「あのお店だよ…」と小さい声で知らせ、車の窓から一緒に見た。

あの日とほとんど変わらぬ外観だ。なつかしさがこみあげてくる。斎藤さんが「行かなくていいの!! 車止めてもらおうよ」と言ったのだが、私は「^③…あとでいいよ。先に岡寺に行こう」と言った。なんか急に恥ずかしいような気持ちになってしまったのだ。

車は岡寺まで行き、寺の前で止まった。^力運転手さんに待っていてもらい、岡寺に入った。

岡寺は、小ぢんまりしているけれどとても美しく趣き深い寺だ。樹齡何百年も経っている老木がたくさんあり、それを見ているだけでも古^{いにしえ}の時の流れと今をつなぐ神聖な尊さや不思議さを感じられる。

岡寺の本堂の中の仏像がまた美しく、迫力があり⁺胸を打つ。

静かで美しい岡寺を後にし、私達は車に乗った。もう、少し日が傾いてきたので私は甘樫丘に早く行った方がいいんじゃないかと思い、運転手さんに「^④甘樫丘に行って下さい。それで、その後、もう一回こちらに戻って坂の途中のお茶屋さんに行きたいのですが…」と言った。

すでに車は坂乃茶屋さんを通り過ぎていたが、運転手さんは「あのお茶屋さんに行きたいのなら、今行った方がいいですよ。甘樫丘の後だと、もう閉まっちゃうから」と言って車を止めた。

私は、どうしようか迷った。もう坂乃茶屋さんを通り過ぎてしまっているし、甘樫丘の景色に間に合わないかも

しれないし、昔描いた自分の色紙を見るのも恥ずかしいという気持ちもまだあった。

⑤ 迷っている私に斎藤さんが「お茶屋さんに行こうよ。絶対に行った方がいいよ。ちょっと見るだけだから、せっかくここまで来たんだから」と言った。

私も「本当にそうだね。ずっと来たかったんだから。あのお茶屋さんに来たいと思ってたんだからね。行こう」と言って、車をまたお茶屋さんまで戻してもらった。

店に入ると、入ったとたんに良く見える所に私の色紙が飾られていた。

私と斎藤さんは黙ってそれを見ていた。店のおばさんが出てきて「いらっしやい。どうぞお上がりください」と声をかけてくれたが、私達はまだ黙って色紙を見ていた。

おばさんは「ああ、この色紙ね、ちびまる子ちゃんのさくらももこさんが、まだ学生さんだった頃にうちにいらして描いてってくれたんですよ。うちに来るお客さんがみんな喜んで見ていくんです。うちの⑦家宝なんですよ」とにこにこして言った。そして続けて「さくらももこさんのファンの方ですか」と言ったので私も斎藤さんも返事にとまどい、⑥ 何とも言えずに黙っていると、おばさんは「…もしかして、さくらももこさんですか」と尋ねてきた。

私は、「…はい、そうです。本当にお久しぶりです」とやっと言った。さっきからなんかもう胸がいっぱいで何も言葉にできなかったのだ。

それをきいたおばさんは、ものすごく感激した表情で「本当に!? さくらももこさんですか。やっぱり、もしか

したらそうじゃないかと……ああ、うれしい。⑦こんなにうれしいことはありません。ようこそうちのことを覚えていて下さいまして来て下さいましたね。どうぞお上がり下さい」と言い、目がうるんでいた。私も斎藤さんも目がうるんだ。

店の奥からおじさんが出てきて、「本当にようこそまたおいで下さいました。うれしい。さくらももこさんが学生の時描いた色紙がうちにあることを、前に関西のテレビでもたくさん流しましたんですよ。お客さんもみんな喜んでくれています。本当にまたよう来て下さいました。ゆっくり休んでいて下さい」と言って、おいしいわらびもちとくずきりとお茶をごちそうして下さいました。

店の中も、あの日とほとんど変わっておらず、あの日学生だった私と仲間と座ってにゅうめんを食べた思い出が蘇えってきた。

漫画家としてデビューする5日前の気持ちは、自分の人生がこれから一体どうなってゆくんだろうという、大きな希望と夢と少しの不安があったけれど、とにかくがんばろうと思っていた。そして、このお店で初めて色紙を描きながら「何年か後に、今描いているこの色紙を、みんなが喜んで見てくれるようになっていいな……」と思っていた。

あの日から、再びここへ来るまでの月日は長いとも短いとも言えないが、良いことも辛かったことも全て含めて私自身の糧になっている。

16年前の私は、16年後の私に、どのようになっていて欲しいと思っていただろうか。

期待に添えてないところもたくさんあると思う。ごめんね……って思うところもたくさんある。だけど、あの日描いた色紙が、お店のおじさんとおばさんに大事にもらって、みんなに喜んでもらえていることだけは確かだから、許してね。……と16年前の私に言ったら、たぶん「それだけでいいよ」と言って喜んでくれると思う。

私は、また坂乃茶屋さんに一枚色紙を描かせてもらった。16年前はまだ

*

を描いていなかったの、今度は

*

の絵を描いた。お孫さん宛に頼まれたのでその色紙にはお孫さんの名前を書き、坂乃茶屋さんのお店宛の

色紙は、また改めて送らせてもらうことにした。

坂乃茶屋のおじさんに別れを告げ、おばさんは店の前でずっと手を振ってくれていた。

私と斎藤さんは車に乗ってもまだ感動したまま甘樫丘に向かった。

甘樫丘のふもとに着き、私達は急いで坂を登って行った。早くしないと日が暮れてしまう。

頂上に着くと、ちょうど日没前の美しい飛鳥の景色が広がっていた。ここから見る景色も、ほとんど16年前と変わっていなかった。

奈良に来てよかった。たった1日の旅だったけれど、忘れられない大切な思い出の旅になった。

奈良のおまけのはなし

さて、飛鳥に行った私と斎藤さんは、翌日とりあえず大仏ぐらいは見に行こうと思い、東大寺に行った。

そして大仏を見た。私は過去2〜3回、奈良の大仏は見ているのだが、やっぱり大きいよなァと思う。このぐらいの大きさで、本当に生きていて「やあ、ももこさん、あんたねゲームばかりやってないで、さっさと仕事しな

いと、オレ怒るよ」なんて言われたら、泣いて謝まってゲーム断ちをするね。

大仏を作るのも大変だったと思うけど、^⑦お堂を作るのだって大変だっただろう。そしてこうしてキレイに手入れするのも大変だろうし、東大寺はよくやっているなァと感心する。

正倉院も見に行ったが、これだってすごく立派だ。2メートル以上も床を上げて大きな建物を作っているんだからたいしたものだ。これの# 多くの日本の宝物が長い年月守られてきたのだから、昔の人は有難いことをしてくれた。

正倉院の裏山には、小さな寺院がたくさんある。時間がたっぷりあればいくつも回りたかったのだが、私達には時間がないので、^⑧知足院というお寺にだけ行ってみることにした。

古い長い階段を上がり、門をくぐると典型的なお寺のお堂が静かに建っていた。

大きな木に囲まれ、誰もいない寂しさが何とも言えぬ程良い。寺自体の呼吸が聞こえてくるような感じた。

そういう感じが好きな人にはおすすすめだ。ハデなのが好きな人には、あまり向いていないかもしれない。

奈良のくずもちとか、にゅうめんとか、あと茶がゆとかわらびもちとか、お茶屋さんでひと休みして食べるのがおいしいから、ぜひ食べてみて下さい。お寺の近くにはたいいていそういうお茶屋さんがありますので。

(1) — 線部①「そう思い立ち」の内容を本文中から三文で抜き出し、各文の初めの五文字をそれぞれ答えなさい。

(2) — 線部②「デビュー前の自分が色紙を書いて置いていった」色紙について次の問いに答えなさい。

㊦店の人とお客さんにはどう思ってもらっているか、本文中から三十六字で抜き出し始めと終わりの五字を書きなさい。

①私はどう思いながら描いたのかを説明しなさい。

(3) — 線部③「…あとでいいよ。先に岡寺に行こう」と私が言ったのはなぜですか。「色紙」という言葉を使って説明しなさい。

(4) — 線部④「甘樫丘に行って下さい」と私が言ったのはなぜですか。説明しなさい。

(5) — 線部⑤「迷っている私」とあるが、私が迷ったのはなぜですか。理由のわかる一文を本文中から抜き出し、始めと終わりの五字を書きなさい。

(6) — 線部⑥「何とも言えずに黙っている」とあるが、作者と斎藤さんが黙っていたのはなぜですか。

(7) — 線部⑦「こんなにうれしいこと」とありますが、具体的に説明しなさい。

(8) * に漫画の主人公の名前を書き入れなさい。

(9) # に入る最も適当な語を後から選んで入れなさい。

せいで おかげで もとで きっかけで ために

(10) 線部⑧「知足院」を説明した次の文章の空欄に適当な語を書き入れなさい。

① の ② に ③ ある ④ 寺院の中のひとつ

(11) 線部㉗㉘㉙㉚の漢字は読み方を、カナは送り仮名も含めた漢字表記で書きなさい。

(12) 線部㉛「運転手」のように「手」が語尾につく三字の熟語を二つ書きなさい。(手の読み方は問わない)

(13) 線部㉜「胸を打つ」のように体の一部(胸を除く)を使った慣用句を二つ書きなさい。
(同じ部位は二度使えない)

(14) 線部㉝「家宝」の熟語の構成を記号で選び、同じ構成の熟語を例以外で二つ書きなさい。

① 同じような意味の漢字を重ねたもの 例 身体

② 反対または対応の意味を表す字を重ねたもの 例 左右

③ 上の字が下の字を修飾しているもの 例 洋画

④ 下の字が上の字の目的語・補語になっているもの 例 着火

⑤ 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの 例 非常

(15) 線部㉞「お堂」の「お」を漢字で書き、同じように語頭に丁寧表現を作る「お」と読む漢字が付く三字の熟語を漢字で書きなさい。

(16) 「古いにしえの時の㉟流れと今を㊱つなぐ㊲神聖な尊さや㊳不思議さを感じ㊴れる。」の

線部㉟㊱㊲の品詞名を次から選び書きなさい。

名詞 連体詞 副詞 感動詞 接続詞 動詞 形容詞 形容動詞 助詞 助動詞

(17) 今回の奈良旅行について、家からの行程をつぎの条件に従って書きなさい。

- ・ 作者（私）の思い、感動などを一つは書き入れること。
- ・ 自分の感想、思いは書き入れないこと。
- ・ 原稿用紙の正しい書き方に従って書くこと。
- ・ 名前、題名は書かないで、本文から書き始めること。
- ・ 百六十字以上、二百字以内で書くこと。
- ・ 三段落以上に分けて書くこと。
- ・ 箇条書きでは書かないこと。
- ・ 一日のうちの時間帯がわかるように書くこと。
- ・ 行った場所は固有名詞で書くこと。

次の頁に続く

2 次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。(字数制限がある場合は、文章記号なども一字とする。)

右側に現代語訳を付けた部分がある。

※設問の関係上、表記に手を加えた部分がある。

ある川の辺に、狐、魚を食ひける⑦折節、狼、飢えに臨んで歩み来れり。狐に①申すやう、「その魚を少し与

私の食事にしよう」

へよ。餌食に①なしてむ」と言ひければ、狐申しけるは、「あな恐れ多し。わが余を奉るべしや。

私の食べ残しを差し上げるわけにはいきません。

さしあげましよう」

あちら「こちら

籠を一つ持ち来らせ給へ。魚を取りて参らせむ」と言ふ。狼②「ここかしこに駆け廻つて、籠を取りてぞ来りける。

狐⑦教へけるやうは、「この籠を尾に付けて、川の真ん中を泳がせ給へ。後より魚を追ひ入れむ」と言ふ。狼、籠

を括り付けて、川を下りに泳ぎける。狐後より③石を取り入れければ、次第に重くて、一足も引かれず。狼、狐に

「そうです。」

申しけるは、魚の入りたるか、ことの外に重くなりて、一足も引かれずと言ふ。狐申しけるは、「さん候ふ。

ことの外に魚の入りに見え候ふ程に、我が力にては引き上げがたく候へば、獣を★雇ひてこそ参らめ」とて、陸

上がった。

「Istas

に④上がりぬ。狐、あたりの人々に申し侍るは、「かのあたりの羊を食らひたる狼こそ、ただ今川中にて魚を盗み

でおります

打ち倒した。

候へ」と申しければ、我先にと⑤走り出で、散々に打擲しける。

(1) 〱線部㉞㉟を現代仮名づかいのひらがなで書きなさい。漢字も現代仮名づかいのひらがなに直すこと。

(2) 〱線部①④⑤は誰の動作か、本文中の言葉で答えなさい。

(3) 狼が〱線部②「ここかしこに駆け廻」ったのはなぜですか。説明しなさい。

(4) 狐が〱線部③「石を取り入れ」たのはどうするためですか。説明しなさい。

(5) 狼の発言を示す「」が抜けている。「」を付けるべき部分の始めと終わりの五字を書きなさい。

(6) 本文の内容に合っているものを一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 狼は、狐を食べようと思って近づいた。

イ 狐は、川で泳ぐ狼の後ろをついていった。

ウ 狐は、狼のために魚を捕る手助けをした。

エ 狼は、羊を食べてから魚を盗もうと思った。

(7) 〱線部★「雇ひてこそ参らめ。」の「め」は本来は終止形「む」で結ばれるはずが、助詞「こそ」によって、已然形の「め」になったものです。このようなことばの決まり（法則）を何と言うか答えなさい。

(8) この話は、次のどの作品に入っていますか。作品名を選んで答えなさい。

竹取物語 平家物語 伊曾保物語 徒然草 万葉集

受験番号		名前	
------	--	----	--

[illegible]

裏面に続く

受験番号		名前	
------	--	----	--

[illegible]

